



## WEEKLY REPORT

JUNE.7.2023 第2066回

## 思い出に残る子どもたち



AMU(上田市多文化共生推進協会)

会長 安藤 健二様

私は小学校を中心に37年ほど教員をしておりました。その中で印象に残っている子ども達のことをお話しします。

初任地は下伊那の天龍村にあった「向方(むかがた)小学校」でした。最初の年は、3年生14名と4年生3名の3・4年複式学級の担任でした。初任者なのに2学年一緒に教室で学習するというので戸惑いました。そんな複式学級を担任して二年目、5人の3年生の中に、私の心に今も残る「ヒロジ君」がいました。

ヒロジ君は、山の上に家があり、朝は山を下り帰りは山を登って(片道約1.5キロの山道)を帰っていきます。春から夏、秋にかけて彼は裸足でした。冬は流石に靴を履いていましたが、まず、この裸足ということに私は驚き、どういふ家庭の子どもだろうかと興味がわきました。そんな折、家庭訪問で大変なことが起こるのです。私はヒロジ君に言いました。「今日は家庭訪問なので先生も歩いてヒロジ君のうちにいくよ。よろしくね」と。ヒロジ君は、別にうれしいでもなく困るとも言わず、さっそく帰り道を歩き始めます。当時、私は24歳でしたから負けずに登り坂を歩き始めます。でも、ヒロジ君の登りの速さといったら、まるで猿のように駆け上っていきます。息を切らしてやっと彼の家に着くと、まず家の内部に驚きました。家の中に畳はなく、ねこ(藁で編んだ厚手のむしろ)を敷いて生活していました。つましい生活をしていたのでしょう。正業は、乳牛の飼育、搾りたての牛乳を毎日お父さんがトラックで遠くの「集乳所」まで運んで生活していました。

さて、家庭訪問の話に戻ります。ヒロジ君は一人息子で一家3人で暮らしています。お母さんがお茶を勧めてくれました。私は、ヒロジ君の学校の様子を話し元気で毎日通学していることを褒めました。私の前には漬物物と「大きなどら焼き」がありました。お母さんのところにも「大きなどら焼き」がありました。お母さんは「どうぞ」と勧めてくれましたが、その「大きなどら焼き」を、なぜか私は(本能的に)食べてはいけないと思いま

した。山を40分ほど登ってきたし、お腹も空いていたけど、食べる気にならなかったのです。私は、お茶と漬物物をいただき、「また明日からも元気に学校に来てね」と、ヒロジ君の家を後にしました。

次の日、朝、ヒロジ君がニコニコして教室に入ってきました。私を見るなり、「先生、昨日はありがとう。ぼく、昨日は二つもどら焼き食べたよ。うれしかったよ。」と言いました。ヒロジ君の去年の担任の先生に聞くと、「ヒロジ君のうちでは、お菓子、特にどら焼きのようなお菓子は年に1、2回しか買えないこと、それも家庭訪問のように1つじゃ困る時でも2つしか買えないんですよ。」とのこと。私、この話のあと、「あー、よかった。どら焼き、食べなくて」と自分が食わずに家庭訪問を終えたことに感謝しました。

つぎに、笑えた話をいたします。教員になって2校目、阿南町の大下条小学校での出来事。二年生の担任でした。今日はBCGの注射の日です。注射に行く前に子どもたちに言いました。「これから注射に行きます。」「注射には、ゆかりさんをのぞいて、全員行きますよ。」すると、すーと廊下に並ぶはずの子どもたちがちっとも並びません。

どうしたんだと子ども達の様子を見ると、一人ひとりが後ろのドアのところまで「ゆかりさんを覗いて」から並んでいるのです。こりゃー、時間かかるわけだと思いました。保健室の先生は「2年竹組はどうなってるの?」とヤキモキしていました。「ゆかりさんをのぞいて」と2年生に言ったことがいけなかったのです。あとで保健室の先生にこのことを話したら、しばらく笑いが止まりませんでした。私の教員生活37年の中で一番笑えた話です。

さて、今日はAMUが、今やっている日本語教室「にほんごアムアム」に通う子どもたちのことについてふれたいと思います。現在通っている子ども3人です。

まずは「ラズビール君」について。ラズビール君は、昨年7月に日本にやってきました。彼はネパール人です。AMUには昨年9月から通っています。いま南



